

## 第252回理事会を開催

— 令和8年度全連小活動方針等が審議・承認される —

2月12日(木)・13日(金)の2日間に渡り、第252回理事会は、KKRホテル東京にて正副会長をはじめ、理事・監事が参集して開催された。

1日目は、令和7年度事業・会計報告及び監査報告があった。議事として令和8年度活動方針、各部活動案並びに基金会計について審議、承認された。また、令和10年からの全連小新研究主題の報告があった。さらに、震災等災害被害県(仙台市)からの報告も行われた。2日目午前には、対策部・調査研究部10委員会の令和7年度活動報告があり、その後文部科学省初等中等教育局教育課程課 栗山和大教育課程企画室長の講演、午後は、皇居特別参観が行われた。

進行 高山 庶務部長

### 1 開会のことば

田沢 副会長

### 2 会長あいさつ(要旨)

松原 会長

○はじめに

・福岡大会の振り返り

「校長にとっての最大の研修の場」である大会として、活気あふれる素晴らしい研究協議会となった。田村学主任視学官の講話を、論点整理が出た直後に直接全国の校長が共有できたことは、非常に貴重な機会につながった。



聖家族贖罪聖堂彫刻家 外尾悦郎氏のご講演では、世界から日本を見ること、「心の拠り所」が挑戦を支えること、「対話」が創造の源泉であること、「利他」と「誠実さ」こそが答えになることなど、小学校教育の本質を考える多くの学びを得ることができた。

・文科省へ新年のご挨拶

会長、両副会長、事務局長で文部科学省を訪れた。矢野和彦文部科学審議官からは、更なる定数改善、奨学金、学校と教師の業務の三分類について、望月禎初等中等教育局長からは、次期学習指導要領の改訂について話を伺うことができた。

・全連小研究協議会「事前打合せ会」

1月23日・24日に実施された。全連小活動には、①つながり ②学び ③国に声を届ける役割があり、全連小研究協議会は、校長にとって最大の研修の場であるとともに最高の学びの場でもある。大切にしていきたいことは、受け身の学びではなく、校長一人一人が自ら考えることであり、正解を追い求めて追求していくことでもある。今後も各地区の実態や特色、持ち味等から学び、切磋琢磨できる場として生かしていく。

・全連小大会の「バトンをつなぐ」

令和元年度の秋田大会からコロナ禍を経るなど、様々な困難を乗り越え、バトンをつないできたからこそ今がある。今後、令和8年度北海道大会、令和9年度福島大会、令和10年度大阪大会へと意図的・計画的につないでいく。

○次年度に向けて

次期学習指導要領については、年度末に答申が示されることになるだろう。全連小としても、考え方を整理して共有するとともに、国に対しても声を届けていくことを考えたい。また、調整授業時数制度についても、各地区の先進的な取組に目を向けていきたい。そして、令和10年度に向け新研究主題についても周知していく。

## ○国の動向

・1月26日に中央教育審議会初等中等教育分科会が開催され、いわゆる給食無償化について話題になった。5,200円の補助により抜本的な負担軽減をするというのが文部科学省の施策であり、給食を完全に無償化するものではない。

## ○次期学習指導要領の論点整理について

・学習指導要領の論点整理のポイント資料が示された。9月以降に更新された情報は、このポイント資料に反映されており、最新の情報が得られる。

・次期学習指導要領に向けた基本的な考え方における「三位一体で具現化」については、①「主体的・対話的で深い学び」の実装 ②多様性の包摂 ③実現可能性の確保が掲げられている。特に、②については、保護者、地域、教育委員会が関心を寄せるであろう。学校もまた大切にしたい視点であるが、③がまずは保証される必要がある。

・用語の整理として、これまでの「中核的な概念」が「高次の資質・能力」へと変更となった。他には「中核的な概念の深い理解」が、「知識及び技能に関する統合的な理解」へと、「複雑な課題の解決」が「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」へと変わった。今後も更に変更される可能性もある。

・「学びに向かう力、人間性等」については、「初発の思考や行動を起こす力・好奇心」「学びの主体的な調整」「他者との対話や協働」「学びを方向付ける人間性」の4要素で整理され、新たな観点別評価の方向性が示された。

## ○おわりに

次期学習指導要領の論点整理については、二日目の、文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室 栗山和夫室長からの講演を通して理解を深めていただきたい。

## 3 報告

### (1) 事業・会計報告及び監査報告（中間）

高山 庶務部長・室伏 会計部長・佐藤 監事

### (2) 要望・要請活動について 飯塚 対策部長

10月28日に子どもたちの豊かな育ちと学びを支援する教育団体連絡会の23団体による全国集会が開催された。松本洋平文部科学大臣からの挨拶で、「現場主義で仕事を進める」とあった。

また、各会派のどの代表議員からも、「給特法は改正されたが、更なる働き方や業務改善に向け、超党派で政策の実現に取り組んでいく。そのためには現場の声をしっかりと聴く」という挨拶があった。松原会長が「子供たち一人一人に対するきめ細やかな教育の実現のための学校における働き方改革及び指導・運営体制の充実等を求めるアピール」を読み上げ、全会一致で承認された。12月12日に、「小学校教育の充実・改善に関する要望書」を衆参両院の文教関係国会議員へ手交してきた。

### (3) 広報活動について 荻久保 広報部長

小学校時報、研究シリーズ等、計画通りに進めることができている。小学校時報1月号では人を育てること、伝統を守っていくことの大切さについて、会長と原田左官工業所社長との新春対談を2月号では全連小北海道大会についての詳細を掲載している。ホームページ、速報等で全連小の活動について発信している。

これらの広報活動は学校経営の充実に役立つとともに刊行物の印税が全連小の運営を財政的に支えている。引き続き、購読等へのご理解とご協力をお願いします。

### (4) 全連小新研究主題について 高瀬 調研部長

#### ①新研究主題設定の決定について

研究主題の改訂は学習指導要領の改訂に合わせて行っている。検討は、令和7年1月から準備検討委員会、検討委員会、部長会及び常任理事会での協議を経て、決定した。

#### ②全連小新研究主題

「自ら未来を切り拓き 多様な人々とともに豊かな社会を創り出す 人財の育成を目指す小学校教育の推進」について（令和10年度より）

### (5) 研究協議会について

#### ○第77回福岡大会 松本 福岡県小学校長会長

令和7年10月16・17日に福岡市において開催し、無事終了した。皆様に感謝申し上げます。概ねよかったのではないかと評価をいただいていたことが成功につながった。今回の成果も今後の開催地へ引継ぎをさせていただいた。

#### ○第78回北海道大会 田邊 北海道小学校長会長

令和8年10月1・2日に開催する。2月に各都道府県の事務局に大会案内を配付する。関係文

書の送付等について確認していただきたい。開催場所は札幌市。分科会場の3施設は、地下鉄で移動が便利な場所となっている。また、教育視察研修にも奮ってご参加いただきたい。開催まであと8か月となった。皆様のご支援を受けて成功に向け取り組んでいく。

○第79回福島大会 小野 福島県小学校長会長  
令和9年10月7・8日に開催予定である。開催場所は郡山市で、分科会場の4施設へは、全体会場の「ビックパレットふくしま」から輸送バスでの運行を予定している。参加者数は2,500名、参加費はこれまで同様8,000円を予定している。教育視察研修は、8日～9日で予定している。なお、原発視察研修として最後の研修となる。また、現在の研究主題を受けた最後の大会でもある。「持続可能と感謝」をテーマとして取り組んでいく。

#### (6) 震災等災害被災県より

○仙台市 泉 仙台市小学校長会長  
震災から15年が経過しようとしており、仙台市では、震災の教訓を風化させず、次代を担う子どもたちの「防災対応力」を育むため、仙台版防災教育の取組、仙台市小学校長会としての取組等、継続して行っている。仙台市の小学校教員のうち、震災未経験者の割合が6割以上となり、子どもは全員が震災後生まれである。直接的な体験をもたない世代がいかにしてリアリティをもって教訓を伝承し、新たな防災教育を展開していくか、各校での模索が続いている。

#### 4 議事 議長 八木 副会長

##### (1) 令和8年度全連小活動方針について

【全連小活動方針(案)【概略】】 松原 会長  
令和8年度は以下の活動を重点とする。

- ①学校経営の充実 ②調査・研究活動の充実
- ③創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善
- ④教職員の定数や処遇の改善・学校における働き方改革の実現 ⑤教職員の資質・能力の向上
- ⑥組織の活性化と情報発信・提言活動の強化

〈第253回理事会への提案を承認〉

##### 【対策・調査研究・広報の各部活動(案)【概略】】

〈対策活動(案)〉 飯塚 対策部長

以下の対策活動を迅速かつ組織的、継続的に行う。

- ①活力ある学校づくり推進のための教職員定

- 数、学級編制等の改善 ②東日本震災をはじめとする災害復興等に関わる人的措置の充実及び施設・設備・教材等の迅速な整備 ③学校経営の自主性・自律性の確保に向けた条件整備
- ④教職員の資質・能力向上のための条件整備
- ⑤活力ある学校づくりのための施設・設備・教材等の整備・充実 ⑥児童に対してより効果的な教育活動を行うための学校における働き方改革の実現 ⑦教職員の処遇改善 ⑧役職定年・退職時、及び退職後の処遇改善 ⑨積極的な意見表明と情報発信

〈調査研究活動(案)〉 高瀬 調査研究部長

以下の調査研究活動を組織的、継続的に行う。

- ①教育課題に関する調査研究 ②教育課程の実践的研究 ③人材育成に向けた取組の充実・推進 ④人権教育の充実・推進 ⑤特別支援教育の充実・推進 ⑥生徒指導・健全育成の充実・推進 ⑦教育改革などへの積極的な対応 ⑧全国連合小学校長会研究協議会北海道大会の開催

〈広報活動(案)〉 荻久保 広報部長

以下の広報活動を組織的、計画的に推進する。

- ①全連小活動に関する迅速・正確な情報の提供 ②学校経営に資する適時・適切な資料及び全連小活動に関する詳細な情報の提供 ③学校経営に資する研究資料の提供 ④インターネットによる情報の発信 ⑤広報活動の一層の推進・充実

〈各部活動案の第253回理事会への提案を承認〉

##### (2) 令和8年度基金会計について【概略】

室伏 会計部長

令和8年度の基金・果実会計については、試算表に基づき執行することを承認。

#### 5 連絡

- (1) 皇居特別参観について
- (2) 令和8年度第47回全連小海外教育事情視察(ニュージーランド)について
- (3) 法務省“社会を明るくする運動”作文コンテスト参加のお願いについて
- (4) 大月書店の書籍の紹介
- (5) パンフレット『毎日ネットに触れるこどもたちを守るために』の紹介
- (6) 「道徳教育と学校経営」についての管理職対象「道徳の教育に関するアンケート」へ

の協力依頼（植村顧問より）

## 6 各委員会からの本年度活動報告

### (1) 調査研究部 6 委員会

〈教育課題委員会 太巻委員長〉

国民の信託に応える小学校教育の役割と時代の進展に即応する課題、教員の資質能力の向上と子どもと向き合う環境づくりに関する課題、各種学力調査の実施と活用に関する成果と課題、教科担任制やICTを活用した新たな教育施策に関する課題について調査した。

〈教育課程委員会 所委員長〉

新しい時代に即応した教育計画の立案と実施・評価に伴う課題について、学習指導要領の理念実現に向けた取組、ICTの活用による教育の質の向上と効率化、組織的な基盤強化と持続可能な教育の実現、学校規模の違いによる課題とその解決方法について調査した。

〈人材育成委員会 平野委員長〉

時代の進展と社会の変化に即応した教員の資質能力の向上を図るため、職層に応じた研修に関する課題、OJTの実施上の課題について調査した。

〈人権教育委員会 大須賀委員長〉

全国各地の実践事例を取り上げ、人権教育の在り方の改善策や学校・地域の実態を踏まえた人権教育推進課題を調査し、今後の人権教育の推進について提案した。

〈特別支援教育委員会 松本副委員長〉

通常の学級に在籍する障害のある児童への支援の在り方や特別支援教育を担う教師養成の在り方、特別支援教育の経験者を増やすための取組について調査した。

〈健全育成委員会 大川委員長〉

児童の健全育成に関わる特徴的な課題として、携帯電話やインターネット等に関わる犯罪やネット依存に対する現状と課題、児童虐待やヤングケアラー、いじめ防止や暴力行為、不登校対策の現状と課題について調査した。

### (2) 対策部 4 委員会

〈教職員定数改善等委員会 山縣委員長〉

学級編制（特別支援学級を含む）や教職員等の配置に関する調査を実施した。現状と課題を明らかにし、教職員定数の見直し等の要望を行う際の基礎資料とする。

〈教育環境整備等委員会 佐藤委員長〉

これからの学校の在り方や方向性等を示すため、ICT活用や安全対策、学校図書館の教育環境の整備状況を調査した。

〈教員養成委員会 保坂委員長〉

都道府県教育委員会及び都道府県小学校長を対象に、小学校教員の採用選考の多面化・早期化・複数回数実施等の状況、教員免許更新制の発展的解消に伴う研修の在り方や教育実習等について調査した。

〈働き方・処遇改善委員会 細萱委員長〉

学校における働き方改革の状況把握や管理職及び教職員の処遇改善や給与・手当・賞与の減額に関する調査を実施した。

## 7 講演（要旨）

「次期学習指導要領に向けた検討状況～見通しを持ち、明日の教育改善にもつなげるために～」

文部科学省初等中等教育局教育課程課

教育課程企画室長 栗山 和大氏

### (1) 検討においてどのような前提があるか

今回の次期学習指導要領改訂に向けた検討は、急速に変化する社会状況を大きな前提としている。少子高齢化の進行や、AI・デジタル技術の発展により社会や働き方は大きく変わりつつある。今後は人生100年時代を生き、転職や副業を含むマルチステージ型の人生を歩む可能性が高い。企業寿命の短縮や労働力不足の中で、人生の主導権は組織から個人へ移りつつあり、自ら考え、選び、行動する力がこれまで以上に求められている。

テクノロジーの進展は脅威であるが同時に機会でもある。スキルの有無以上に「思い」や「願い」、すなわち夢をもてるかどうかが重要である。また、グローバル化も外に向かうものだけでなく、日本社会の中で多様な背景をもつ人々と共生する「内なるグローバル化」への対応が不可欠である。

今回の検討は現行学習指導要領を否定するものではなく、その成果を踏まえた延長線上にあることが強調された。全国学力・学習状況調査



での地域間格差の縮小や国際学力調査（PIISA）での高い水準は、現場の努力の成果である。

一方で、多様性の顕在化や、「主体的・対話的で深い学び」が十分に実現しているとは言いきれない現状、子どもの社会参画意識や表現力、自律的学習への自信などに課題があることも認識されている。

デジタルか紙かという選択ではなく、デジタルでリアルな学びを支え、一人一人の可能性を伸ばすという視点が必要である。そして何より、改革を教師の熱意や自己犠牲に依存する形で進めるのではなく、勤務環境整備と整合させながら、理想と実現可能性を両立させることが前提とされている。こうした認識のもとで中教審での議論が進められ、その中間的整理として「論点整理」が示された。

## (2) 教育課程企画特別部会論点整理（令和7年9月25日）

○学習指導要領改訂の大きな方向性とは

次期学習指導要領改訂の基本は、①「主体的・対話的で深い学び」の実装、②多様性の包摂、③実現可能性の確保の三位一体で、多様な子どもたちの「深い学び」を確かなものにしていく。

○「深い学び」を実現するための工夫とは

「深い学び」を支えるため、学習指導要領の構造化・表形式化・デジタル化を進める。また「学びに向かう力・人間性等」「見方・考え方」といった資質・能力を再整理し、教員・学習者が意図をつかみやすい記述に改善する。学習指導要領と個別最適・協働的学びの関係整理も重要視される。

また、デジタル学習指導要領のイメージとして、教科・学年・キーワードで容易に検索できるようにする構想や、目標・内容・見方・考え方と解説・評価を一体表示し、小中や教科間の比較、系統表から個別項目への往還も可能にすること等も示された。指導書や外部教材へのリンク、二次元コード連携、ワード・エクセル出力等にも対応し、単元・授業計画づくりに活用できるように、構造化・デジタル化を進める方針である。

○多様な子供たちを包摂するための柔軟な教育課程の在り方とは

児童生徒の実態を踏まえ、教育課程の柔軟性

を高める。調整授業時数制度や裁量的な時間の創設等によって、多様な学び方に対応する編成・実施の仕組みを整える。この制度は柔軟な時間配分で教育の質を高め子どもに還元する仕組みとして位置付けられる。既存の教科内容に該当しない様々な学習活動や、研究・研修などを活用し、「教科書を」教える発想から「教科書で」自ら学ばせる授業づくりへ転換することが重要と示された。

○情報活用能力の抜本的向上を図る方策とは

情報化社会に対応する基盤的素養を強化する。小学校では総合的な学習に「情報の領域」を付加、中学校では「情報・技術科」を再編・設置し、高等学校でも情報科を強化する。情報活用能力と探究的学びの統合的育成を図る。

○教育の質向上のための「余白」の創出とは

教育活動の質を高めるため、授業時数の見直し・平準化・調整授業時数制度の活用等で「余白」（裁量的時間拡充、教科書精選、授業改善、柔軟配分、教師の創意工夫促進など）を創出する。

○豊かな学びに繋がる学習評価の在り方とは

知識・技能や思考力だけでなく、「学びに向かう力・人間性」を含めた資質・能力を総合的にとらえることを重視した。また、観点別評価の在り方を整理し、「学びに向かう力・人間性」の評価をなくすのではなく、評価をよりしやすくするため、個人何の成長を丁寧に見取る評価へと改善していく方向性が示された。

○その他の検討事項の方向性は

カリキュラム・マネジメントの在り方や高等学校入学者選抜、子どものより主体的な社会参画に関わる教育の改善などが示された。

## ◎ 質疑

Q 高校入試が未履修不安を生み、網羅主義的指導を助長してしまうことについて。

A 方向性をしっかり示し、教科書や授業づくりを含め教育システム全体で変わっていきよう、関係諸機関と連携し進めていく。

8 閉会のことば 八木 副会長

## 自ら未来を切り拓き 多様な人々とともに豊かな社会を創り出す 人財の育成を目指す小学校教育の推進

### □ 研究主題文の解釈

自分の将来を見据えて、人生の目標に向かって自らの可能性を信じて切り拓くとともに、不確実性がより高まってきている社会の中で、多様な人々とともに誰もが幸福と感ぜられる豊かな社会を創り出そうとする「人財」の育成を目指す小学校教育を推進していく。

### □ 主題設定の理由

#### 1 現主題の総括

全国連合小学校長会は、令和2年度第72回京都大会から「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を研究主題として、実践的な研究を積み重ね令和の小学校教育の在り方を追究し、多くの成果をあげてきた。

この間、全国の小学校は、令和2年3月、新型コロナウイルス感染症による全国一斉の休校というこれまでにない経験をした。先が見えない困難な状況の中、子どもたちの学び、教師の学び、そして我々校長の学びを止めないという強い意志のもと、教育に携わる誰もが知恵を出し合い、学校の教育活動を工夫し展開してきた。

そして、Society5.0の実現を目指している社会の流れの中で、これまでの実践や研究成果を生かし、小学校教育の役割と時代の潮流や現代社会の課題を踏まえ、創造性を高めしなやかな知性を発揮して、豊かな社会づくりに貢献できる日本人の育成を目指す小学校教育の推進に鋭意努力してきた。

#### 2 教育の今後の方向性

令和6年12月、次期学習指導要領の改訂に向けて文部科学大臣から中央教育審議会に諮問がなされた。2040年以降の社会を見据え、「令和の日本型学校教育」の継承・発展を前提として、「『主体的・対話的で深い学び』の実装」「多様性の包摂」「実現可能性の確保」を3つの柱として三位一体で具現化を図り、全ての子どもが多様で豊かな可能性を開花させる教育の実現に向けた教育課程の在り方について検討されている。（令和8年度中に中教審答申が出される予定）

#### 3 新主題の設定について

現代の社会は、深刻さを増す少子化・高齢化、紛争等により混迷の度を増すグローバル情勢、気候変動に伴う自然災害の激甚化、生成AIなどデジタル技術の急速な発展といった大きな変化により、社会や経済の先行きに対する不確実性がこれまでになく高まっている。

これからの我が国を担い、未来社会を生きる子どもたちは、生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生を舵取りする力を身に付けることや、異なる価値観をもつ多様な人々とともに対話を行い、問題を発見・解決し、豊かで持続可能な社会を創る力を身に付けることが必要である。

一方、情報通信技術（ICT）の利用、体力や健康課題、子どもの貧困、特別な支援を要する子どもの増加、外国につながる子どもたちの日本語能力の多様化、不登校児童数の高水準での推移など、子どもを取り巻く環境の変化と課題が多様化・複雑化している。

こうした社会状況の変化の中で、これからの新しい時代を生きる子どもたちに必要な資質・

能力を育成する学校には、教育の「不易と流行」を踏まえ、教育基本法等に掲げられた教育の目的・目標に基づき公教育を担う極めて重要な役割がある。

また、長年育ててきた「生きる力」の取組の成果を継承・発展させ、学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を社会と共有し、相互に連携・協働して学校教育を推進する「社会に開かれた教育課程」を実現していかなければならない。

#### 4 新主題の提示

これらのことを踏まえ、令和10年度からの研究主題を「自ら未来を切り拓き 多様な人々とともに豊かな社会を創り出す 人財の育成を目指す小学校教育の推進」と定める。

本研究主題は、小学校教育の役割とこれまでの全連小の研究成果を踏まえ、不確実性の高い時代にあっても社会の変化に主体的に関わり、新たなことにも挑戦し自らの力で人生を切り拓いていく人財、そして、多様な人々とともに、誰もが幸福と感じられる豊かで持続可能なよりよい社会を創り出す人財の育成が求められているととらえ設定した。

研究主題における「人財」とは、未来に生きる子どもたちの存在であり、存在そのものが尊く、一人一人が社会を形成する人としての宝であるとともに、これからの日本を創り出していくかけがえのない存在である。

#### 5 決意

全国連合小学校長会は、本研究主題について日々真摯な研究を重ね、その成果を学校経営に生かすとともに、新しい課題に応える教育の推進に全力を傾注していく。また、研究に当たっては、特に次の事項を重視し、学校経営及び日常の教育活動を通して、積極的に研究・実践に努めていくこととする。

### □ 研究領域

#### 1 学校経営

校長の学校経営に求められること

①経営ビジョンの構築 ②組織マネジメント ③学校外とのコミュニケーション

#### 2 カリキュラム・マネジメント

「社会（地域）に開かれた教育課程」の実現に求められること

④授業改善：学校（校長）の教育課程編成力 ⑤教育環境：教育課程の実現に向けた学校内外の教育資源の開発と活用 ⑥すこやかな心と体

#### 3 指導・育成

学び続ける教師の育成と資質・能力の向上を図る研究・研修の充実を図ること

⑦研究・研修 ⑧人材育成

#### 4 危機管理

安全・安心な学校の確立のために、校長をはじめ学校管理職の強い危機管理意識が求められる

⑨学校安全 ⑩危機対応

#### 5 今日的な教育課題

時代の変化を見定めた新たな教育課題等への対応が求められること

⑪子どもの発達への支援（教育課題1） ⑫地域において取り組む課題（教育課題2）

## □ キーワード

### 「自ら未来を切り拓き」

小学校教育を通して、子どもたちが自らの人生を目的に向かって、自ら学び、自らの可能性を信じて主体的に選択・判断していくとともに、新たなことにも挑戦し、これからの未来や可能性などを自らの力で切り拓いていくこと。

### 「多様な人々とともに」

現代社会は、様々な異なる背景がある人々が共存している。その社会の中で、自分自身も多様な存在として意識するとともに、それぞれの個性を尊重し合い新たな見方・考え方や解を見つける等多様性を包摂する共生社会をとともに目指していくこと。

※多様性（ダイバーシティ）と解することも含めるとらえる

### 「豊かな社会を創り出す」

深刻さを増す少子化・高齢化、紛争等により混迷の度を増すグローバル情勢、気候変動に伴う自然災害の激甚化、生成AIなどデジタル技術の急速な発展といった大きな変化により、社会や経済の先行きに対する不確実性がこれまでになく高まっている。このような社会の様々な変化への対応のみならず新たな解を見いだして持続可能なそして誰もが幸福と感ぜられるよりよい社会を創造すること。

### 「人財」

その人そのものの内面の豊かさを含めて価値ある尊い存在であり、これからの日本を創り出していくかけがえのない存在として、一人一人が社会を形成する宝ととらえる。

※社会を形成するとは、社会を構成し、社会と関わり合うということ